



令和5年度 校長だより

令和5年10月6日(金)

春日の風Ⅱ

No.6

文責 松下 義彦

前期終業式にあたり

みなさん、こんにちは。

さて、今日で2学期制の前期が終わります。前期後半が8月終わりから始まって、1ヶ月あまりしか経ってませんが、明日から4日間の短い秋休みに入ります。1年間の途中の区切りとして、前期を振り返り、後期に向けての準備期間として4日間を過ごして欲しいと思います。とはいえ、運動部活動に入っている1・2年生は新人大会がある人たちがたくさんいます。春日中学校の代表として精一杯頑張ってきてください。3年生にとって後期は、自分の進路を決定していく大事な時期になります。進路決定はもう目の前に迫っています。そのためにも秋休みとはいえ、この4日間を有意義に過ごすよう各自が工夫してください。また、気持ちが進路に向かっていない人はこの4日間で気持ちを変える必要があります。今は苦しいかもしれませんが、ここを踏ん張らないと自分の目指す進路はつかめません。

西沢泰生さんという方が書かれた『壁を越えられないときに教えてくれる一流の人のすごい考え方』という本の中に「幸運の女神が微笑む人の条件」ということが書いてありました。そのことについて少し触れたいと思います。

芝居の舞台や歌舞伎の公演で、主役が倒れた時に、無名の新人が代役に抜擢される事がありますが、あなたはご存知ですか。「へえ、いきなり主役の代わりなんて、よっぼどすごい新人なんだ」って思うでしょうか？その考えは半分だけあたりです。では、もう半分の理由は何か？

その人が代役に選ばれるのには、その人でなければダメな理由がちゃんとあるのです。

問題 代役で新人が大抜擢される時、多くの場合、その最大の条件となる共通の理由とはいったい何でしょう？

答え その新人だけが、主役のセリフを全部覚えていたからです。

その新人は、いつかはこんなことがあるのでは？と、いつもいつも主役のセリフまで全部覚えていたのです。さらに、主役だけではありません。異性や年齢が離れたキャストの代役は無理でも、自分が代役をつとめられそうな出演者については、その全員のセリフを、毎回毎回、全部覚え続けてきたのです。

いつ誰が、急に出演できなくなっても、「あ、〇〇さんのセリフなら全部覚えています！」と、手を挙げられるように準備を怠らなかつた…。気が遠くなるような努力です。

幸運の女神は、ちゃんと努力している人を見ている。そして、「あの子、頑張っているみたいだから、そろそろ微笑んであげようかしら…」なんて思ってくれるのです。

その新人が大抜擢を受けたのは、偶然ではなく必然なのです。

それだけの準備をできる人は、ちゃんと役者としての鍛錬も怠っていないから、それなりの実力を身につけています。だから、「よっぼどすごい新人なんだ」という見方も、半分あたりなのです。

ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊さんは「運を捕まえられるかどうかは、日頃から準備をしているかどうかだ」と言っています。いつでも受け入れ態勢ができていないと、運は目の前をスッと去って行ってしまうということです。また、アメリカ合衆国第16代大統領のリンカーンは、「6時間で木を切り倒せと言われたら、私は最初の4時間は斧を研ぐ事に使いたい」と言っています。ものごとを効率的に進めるには準備を怠るなという教訓です。

これらの話から校長先生がみなさんに伝えたいことは、『チャンスを活かすために、日々の努力を続けられる人になって欲しい』ということです。

自分はダメだとあきらめる前に努力を続けること。そうすればきっと幸運の女神は微笑んでくれます。

では、4日間の秋休みを有意義に過ごしてください。来週の始業式元気に笑顔で合いましょう。

